

わたしたちの暮らしを考える会について

年明けの1月11日(水)、市立社会福祉センター会議室において、「わたしたちの暮らしを考える会」を実施しました。今回は桃山学院大学の石田先生にお越しいただいて、「本人の生活をより豊かなものにする」をテーマに、楽しい話をまじえながらお話いただきました。

まず参加のかたで「ロール・ツリー(役割の木)」という作業をしています。これは、自分自身を「木」に見立てて自身の役割を「枝」として図示する。例えば、「母親」であったり「会の役員」とか「職場において」など人それぞれ色々あるかと思いますが、その中で大きな割合を占めるものを太くしたり、つながりの長短によってエリア分けしていきます。この作業に引き続いて、今度は自分の子供についても同じ作業をしてみます。そうすると役割が少ない傾向、すなわち社会参加の場が足りていないのではということを再認識させられます。

では人との関係性を広げるためにはどうするか?を考える前提として、ノーマライゼーションの理念(当たり前の生活をごく普通におくる)があります。WHO(世界保健機関)の定義では「参加・活動」をキーワードとしています。要件として「個人因子(その人の特性)」と「環境因子(まわりの状況)」があり、その人の特性に合わせていかに周辺環境を整えていくか。足りない部分を環境を整備することで補っていく。その結果、「参加」したり「活動」できることが広がっていく。こうした積み重ねていくと、その人の「ロール・ツリー」も豊かになるのでは、ということでした。

さらに話は発展して、人間の欲求には段階があるという「マズローの欲求の段階」に触れています。様々な欲求は並列的にあるのではなく、階層的に下の段階から

- ① 生理的欲求
- ② 安全・安心の欲求
- ③ 所属と愛の欲求
- ④ 承認の欲求
- ⑤ 自己実現の欲求

とあり、下の段階のニーズが満たされてはじめて上の段階の欲求が芽生える。ここで主に採りあげたのは、「所属と愛の欲求」に関してです。

家族であったり仲間との関係のなかで、人から認められること(承認される)ことがとても大事である。それは「役割」を果たすことにより得られるものであり、その結果、自己実現していくことが可能となる。そのためにも、何らかの形で、その人にあった役割をおこなう機

会をもつことを意識しておくのが重要とのことでした。

そのあと「ソーシャルスキル」についても採りあげています。日々の生活をおくるうえでは、他人とのコミュニケーションをとったり、自己表現をしたりと、人と関係をもつうえで必要な技術です。

このなかには意思決定も含まれていますが、当事者のかたが、例えば衣服を買うときなどなかなか本人の意思が反映したものを購入できてないケースが多くなりがちである。ひとつの方法としては、選択肢を提示してそこから選んでもらう「閉じられた質問」で意思確認を試みる。またその前提として良い選択肢を提示することが大切ということです。そしてそれぞれにコミュニケーション方法にも得意・不得意がある。例えば自閉傾向のかたは、一般的には言語だけではなく、絵カードなど視覚的に伝達すると理解しやすいことが多いなど、その人の得意なコミュニケーション方法をみつけて活用できればということでした。

会の後半では、参加者のかたどうしで、自分の子供の良いところを挙げて話し合っています。普段使う日本語というのはプラスイメージの言葉が少なく、マイナスイメージの言葉を使いがちになるが、いつも叱っていたり怒鳴ってばかりでは、言われた本人の「自己有能感」が失われてしまうので、きちんと評価される経験を積み重ねることは、貴重であるということです。

人それぞれその人にふさわしい役割があり、日々の生活のなかで、それをおこない社会とのつながりを深めていければと強く認識させられたお話しでした。

2012年大阪市知的障害者育成会 「新成人を祝うつどい」開催しました

去る平成24年1月8日(日)、KKRホテル「白鳥の間」にて当会「新成人を祝うつどい」が開催されました。好天にも恵まれ、当日17名のかたが出席され盛大に行われました。

第1部の式典では、笹野井理事長による主催者挨拶のあと、ご来賓からの祝辞を、大阪市健康福祉局障害者施策部 障害福祉課長 中島 進 様および大阪市教育委員会指導部 特別支援教育担当課長 島田 保彦 様より賜りました。

そのあとご臨席の来賓として、両氏ならびに大阪市立特別支援学校校長会会長 鈴木 克彦 様のご紹介をしました。引き続き新成人のご紹介をしています。舞台席に座られている新成人のかたのお名前を順番に読み上げて、一礼していただいています。 <次項へ>